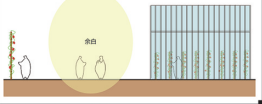
学びから生まれる持続性

～小さな場所から広がり大きく育つ SDGs～

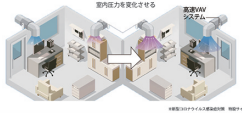
「小学校という学びの場を中心に SDGsを広め、育てていく」

小学生は自分で考えるカや学ぶカが成長していく時期である。その時期に SDGsについて体験し、触れることにより「SDGsと共に過ごすことが当たり前」になる。当たり前になることにより大人になり、家族が出来ても忘れることがない。引っ越してもその生活は続いていく。そうすることによりSDGsの意識は無くなる事は無く、何世代にも継承されかつ広範囲に広がることが予想される。そんな世の中にするために「小学校という学びの場を中心に SDGsを広め、育てていく」。



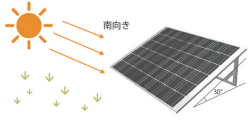
①余白を活用する農業

小学校と農家をつなぐための余白を生み出す。その余白で交流を生み出すために明治用水をつなぐ水路を設置する。明治用水は農業を発展させる為に作られた物である。それを歴史でとどめるのでは無く活用することにより、建築設備と再利用の 2 点を達成する。



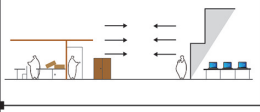
②感染症対策の空調設備の設置

感染症対策で常に換気するのが好ましい。よってフレキシブル空調設備を設置する。室圧や換気等を適切に制御することにより感染症対策を行う。このシステムは操作が容易であり、省エネ設定も定めることができる。



③再生可能エネルギー設備の設置

近年、太陽光発電など設置数は上昇している。「感染症対策の空調設備」「見える化」などにつながる設備になる。また、南向きかつ 30 度の傾斜角の状態で設置することにより効率よく発電する。

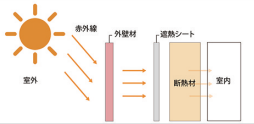


④地域と繋げる工房

開けた工房を設置する。小学生も使用でき、地域の人も使用できる。ここでは交流はもちろんのこと、小学生の斬新な発想や、大人の技術力により他の地域と異なった物ができることに期待する。

⑤見える化

co2 モニターによる室内環境、太陽光発電などを見える化する。そうすることにより実際に行っている活動を目で見て確認することができ、SDGs の活動を確認できる。



⑥遮熱シートによる省エネ

断熱材に加え、遮熱シートを用いる。遮熱シートは温度上昇の原因である赤外線を室内に伝わることを防ぐ働きがあり、室内に熱が伝わりにくくなる。遮熱シートを用いた室内では暖房の効きが良く、年間の電気代を節約することが出来る。

○モデル都市

愛知県知立市　来迎寺小学校

選定理由

周りには自然があり田んぼなど農業に適した土地柄である。授業の一環で地域の人と稲を育てる体験もある。

総合学習の一環で野菜の栽培を行う。

明治用水など地域性が高いものが周辺にある

地域の方のお話が授業にあるなど、密接に関わっている。

○小学校の価値の変化

学ぶ場所から、学び広げる場所にする。小学校を中心として地域へと発信していく。現在の小学校はどこか閉じた施設となっている。地域住民と交流することは多少はあるが、感染症などにより中止や廃止されていることがある。よって①～⑥の設備を設置することによりその問題を解決する。交流を増やすことにより小学校の活動を地域に広げられ、地域の活動を他の地域へと広げられる。

○地域住民の活動の変化

小学校の在り方が変化することに、自然と地域も変化していく。在り方が変化すると地域住民と協力することが多くなる。そうすることにより地域住民も SDGs を意識するようになっていく。そして、その輪が広がっていく。

○2030 年の未来

町としてこのような設備が循環し、住民に浸透した後はこの町をモデルケースにした場所が増えることに期待する。このような設備が浸透すれば町だけで SDGs を踏まえ経済を回すことができるかもしれない。しかし、その町だけが SDGs を考えても意味がない。さらに多くの町や地域が取り組み、浸透していくことにより SDGs はさらに発展していくと考える。